

オーストラリア 生食用ブドウの生産量と輸出量が記録的な増加

[FreshPlaza](#) 2025年10月16日

ラボバンク(オランダの金融機関)の「生食用ブドウ最新情報2025」によると、オーストラリアの生食用ブドウシーズンは記録上2番目の豊作となった。報告書によると、2024/25年度の生産量は、収量の高さと若い園地の成園化により23万トンを上回り、前年比20%の増となった。

ラボリサーチのアナリストであるピア・ピゴット氏は、国内消費が11%増加し、輸出は5年ぶりの高水準である14万8,300トンに達したとしつつ、「オーストラリア産生食用ブドウの中国への輸出量は36%増の5万3千トンとなったが、これは2010年代後半の平均を9%下回っている」と述べた。成長を示した他の主要輸出先は、韓国、フィリピン、ニュージーランド等であった。

ピゴット氏は、新植された園地が成園化してフル生産の段階に達し、エルニーニョ現象が中立的と予測されていることが安定した収量を支えているため、2025/26年度の見通しについても前向きであるとして、「輸送コストの低下、中国での有利な市場環境、アジア全域での堅調な需要が、オーストラリアの生産者の収益向上につながる可能性がある」と述べた。

世界市場の動向

ラボバンクの報告書は、ペルーがチリを抜いて世界最大の輸出国となり、中国が競争相手として台頭していることから、世界の生食用ブドウ貿易に大きな変化が見られると指摘している。

ラボリサーチのシニアアナリストであるゴンサロ・サリナス氏は、中国の輸出が2030年までに1億箱を超えると予測しており、「この展開は、東南アジアをはじめとする市場の多様化と戦略的成長のための新たな道を開くものである」と話す。

ペルーからの輸出の増加により、2024/25年度の世界の生食用ブドウ出荷量は史上最高の460万トンに達した。「ペルーの成功は、世界のブドウ産業の競争力の強化と、主要輸出国間での戦略的再配置の可能性を浮き彫りにしている」とサリナス氏は述べた。

同氏は、中国の輸出拡大が東南アジア全体の需要と供給を再構築していると付け加え、「中産階級の台頭と消費者の嗜好の変化に後押しされ、中国の影響力は世界の生食用ブドウ市場を再構築している。中国の自給が進むにつれて、輸入への依存度が減り、その地位がさらに強化される」と語った。

北米とヨーロッパ

北米では、メキシコでの需要の増加と小売業の継続的な成長に支えられ、米国の輸出は安定している。メキシコのブドウ産業は、国内市場と米国市場の両方の恩恵を受けて堅調である。

南米の輸出は、以前の天候由来の混乱の後、2024/25年度に130万トンに回復した。欧州連合と米国が依然として最大の輸入者であり、世界貿易の43%を占めている。これらの市場の輸入は過去10年間、毎年2%増加しており、米国の1人当たり消費量は2025/26年度には9ポンド(4.1kg)に達すると予想されている。

中国が輸入を減らす中、東南アジアはそれに代わる成長地域として浮上している。サリナス氏は「この地域の需要の高まりは、新たな市場を求める輸出業者に未開拓のチャンスをもたらしている」と述べた。

詳細については: Rabo Bank